



1 国の新方針「みどり加速化GXプラン(MIDORI BOOST)」が公表

～2030 年に向け、今後の農業のカギを握る、脱炭素・成長投資の全貌～

2026 年 6 月 15 日、農林水産省は、日本の食と農の未来に向けた重要な指針となる「みどり加速化 GX プラン（通称：MIDORI BOOST）」を発表しました。これは、2021 年の「みどりの食料システム戦略」をさらに加速させるための具体的なアクションプランの中間目標です、2030 年までに集中的に取り組むべき施策がまとめられました。「みどり戦略」の目標達成と顕在化する農業課題の解決には、生産現場だけでなく、食料システム全体の連携強化が不可欠です。本プランでは、民間投資の積極的な呼び込みや、食料安全保障の確保に向けた具体的な施策が盛り込まれています。

※キーワード解説：GX（グリーントランスフォーメーション）温室効果ガスを排出する化石燃料から、クリーンエネルギーへと転換し、産業構造や社会システム全体を変革する取り組み。単なる環境対策にとどまらず、脱炭素と持続可能な経済成長の両立を目指します。

<みどり加速化 GX プランの全体像>

1. GX 投資の拡大に向けて

- ・ 予見可能性の向上：有望技術の市場規模等を可視化し、投資の「勝ち筋」を明確化。
- ・ 投資の受け皿整備：企業が参画しやすいよう、農山漁村での地域循環経済の創出を推進。
- ・ 多様な投資手法の活用：官民連携の投融資（ブレンデッドファイナンス）や GX 関連補助金を活用。
- ・ 食農 GX 技術の海外展開：日本の優れた技術を世界へ伝える「ミドリ・インフィニティ」構想を展開。
- ・ リジェネラティブ農業の明確化：「環境再生型農業」について、日本としての定義・考え方を整理。

（※「リジェネラティブ農業」の詳細は山正ニュース 199 号（2025 年 12 月号）を参照）

2. 「みどり戦略」の具体施策と強化方針

- ① 気候変動への適応：高温耐性品種の開発支援に加え、地域計画や土地改良事業と連携した産地単位での普及を推進。スマート農業技術を活用した作業環境改善（熱中症対策）も併せて取り組み、災害に強い産地づくりを加速します。
- ② 世界で勝てる有機農業：有機 JAS 認証の活用や地域の多様な関係者の参画を通じ、有機農業の面的拡大を推進。拡大する国内外の有機マーケットを的確にとらえ、持続的に成長する有機産地を形成します。
- ③ 国産バイオマス・再生可能エネルギーの活用：海外依存度の高い化学肥料原料やエネルギーからの脱却を図るため、国内資源の徹底活用を推進。改質リグニンや高機能タンパク質など、農林水産物由来の新素材開発・利用を促すほか、農業現場への次世代太陽電池の導入を進めます。
- ④ みどり戦略「第 2 フェーズ」への展開：J-クレジット制度を通じた企業と生産現場による共通価値の創造や、環境負荷低減の取り組みを可視化する『みえるらべる』（見る×選べる）対応商品の通年販売店舗を拡大します。

⑤「GREEN×EXPO 2027」を通じた国民理解の醸成：2027年3月に横浜で開催される国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）を活用し、「幸せを創る明日の風景」をテーマに、自然を活用した解決策の普及を図り、将来世代を含めた来場者の「みどり戦略」に対する理解促進と行動変容を促します。

このプランは、国が環境配慮型の農業へ本格的に舵を切り、強力に後押しすることを示しています。この変化に対応できる生産者には、新たな補助金、有利な融資、そして新しい販路といった、大きなビジネスチャンスが生まれることを意味していると思われます。

2 施設園芸展(GPEC)2026 に山正「イチゴプロジェクト」を出展

2026年7月15～17日の3日間、東京ビックサイトにおいて「施設園芸・植物工場展(通称:GPEC)」が開催されました。この展示会は園芸施設本体、資材、付帯設備や機器、生産管理機器やシステム、流通・加工・包装資材、業務効率化の提案・機器などが展示されており、今回も合計45,113名の入場者数で、大変盛況でありました。弊社も、前回に引き続き、佐藤産業株式会社様のブースにて、現在取り組んでいる「イチゴ PROJECT1200」をご紹介させていただきました。既存の生産者様はもちろん、イチゴ栽培での新規就農や事業拡大を検討されている多くの方々にお立ち寄り頂き、「これほど体系的なサポートは他にはない」「ぜひ詳しく話を聞きたい」といった熱意あるお言葉を多数頂戴しました。



また、今回は、「イチゴ PROJECT1200」を株式会社 NEXYZ 様(<https://www.nexyz.jp/>)ともタイアップさせていただき、NEXYZ 様の商品ラインナップの一つとして取り扱いしていただけることになりました。

<1 反あたり売上 1,200 万円を実現する「イチゴ PROJECT1200」とは？>

本プロジェクトは、単なる資材販売ではなく、イチゴ観光農園で1反あたり1,200万円という高い売上目標を、お客さまと共に実現するための、総合的ソリューションで、3つの強みを持っています。

- 1) 収量と味を両立する栽培システム:イチゴ栽培に最適化されたハウスと、独自開発の浸透圧栽培法「MBS(モンスターベリーシステム)」により、今までは両立が難しかった「美味しさ」と「著しい多収」の二兎を実現します。
- 2) 栽培から経営まで、サポート体制:資材供給から栽培指導まで「(株)山正」と、観光農園経営のプロフェッショナル「アグリモンスターズスペシャル」と共同で、日々の指導から研修、苗の安定供給まで、経験の有無を問わず安心して取り組める体制を整えています。
- 3) データと戦略で未来を拓く:株式会社CHLOROS様(<https://chloros.ai/>)の提供により、AIによる収量予測や、それに基づいたイチゴ狩りの集客予測など、最新技術を導入しています。将来の海外輸出までを見据えた出口戦略のご提案、さらには Global-GAP 取得の支援も行います。

イチゴ PROJECT1200 にご興味をお持ちいただけましたら、弊社担当者まで、どうぞお気軽にお声がけください。皆様の挑戦を、山正が全力でサポートいたします。